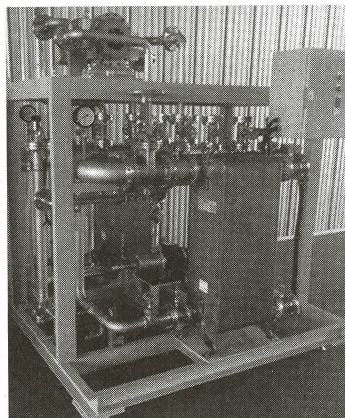


エネ温度差で発電 脱炭素貢献

ダ・ビンチ（奈良県大和高田市、東謙治社長）はロータリー熱エンジンの製造販売などを手がける。従来は捨てていた低温の廃熱などを利用し、熱エネルギーの温度差で発電する独自技術。外燃型のバンケル膨張機を搭載し100度C以下で発電できる（東社長）。北海道の納品先は50度Cで動作している。

同エンジンは低温利用で環境負荷の小さい作動媒体を使用し、10キローワットタイプの小型システムの受託開発も柔軟に対応できる。自動車メーカーなど大手企業の関心も高い。

大和高田市 ダ・ビンチ



ダ・ビンチの独自技術であるロータリー熱エンジンの製品サンプル

中、今後はメタルワゴンと連携し、鉄鋼業界向けにも拡販していく考え。中小企業など工場での環境改善や熱利用に生かしてほしいという。東社長は熱の制御設計で大学や国の研究機関などの共同研究に携わりながら、工業高等専門学校で客員教授を務めるなど脱炭素に貢献している。

【エール】奈良中央信用金庫高田支店・池田剛士支店長 ロータリー熱エンジン技術は廃棄熱を電力に再生する。地球温暖化の抑制や自然エネルギーの利用を促進し、環境改善に貢献する取り組みを支援していきたい。

あの街この街 **奈良企業**